



部会だより

コロイドおよび界面化学部会 令和8年度 部会奨励賞受賞者の紹介

はじめに

コロイドおよび界面化学部会では、当該分野で顕著な業績をあげられた研究者・技術者を表彰するために Lectureship Award (LA), 科学奨励賞および技術奨励賞の各賞を設けております。今年度は、11月に部会設立50周年の記念国際会議「Okinawa Colloids 2026」が開催されるためLAは募集せず、「科学奨励賞」と「技術奨励賞」についてのみ募集いたしました。「科学奨励賞」と「技術奨励賞」は、国内外で顕著な活躍をされている若手研究者を表彰し、さらに先導的な研究への発展を奨励することを目的としたものです。令和8年度の受賞者を以下に紹介します。

科学奨励賞・技術奨励賞

科学奨励賞は、アカデミアに所属する若手研究者を対象としており、本年度は次の2名の先生方に授与されます。

・岡田洋平 先生（東京農工大学）
研究主題「ナノ粒子の分散安定性におけるリガンドの構造機能相関」

岡田先生は、有機合成化学を基盤として独自のリガンド（低分子分散剤）を設計・合成し、非水系（有機溶媒系）におけるナノ粒子分散の研



岡田洋平 先生

究に取り組んできました。リガンドの分子構造とナノ粒子の分散安定性との関係を系統的に解析し、非水系ナノ粒子分散の理解を深化させる優れた研究成果をあげてられました。非水系ナノ粒子分散は産業上極めて重要である一方、その安定性を支配する原理には未解明な部分が数多く残されています。経験論に依存しがちな分散現象に対し、分子レベルの理解に基づく新たな設計指針を提示し、ナノ粒子分散を経験論から分子設計へと発展させる研究を推進しています。

・根本文也 先生（防衛大学校）
研究主題「X線・中性子反射率による液晶表面構造に関する研究」

根本先生は、界面・表面で生じる自己組織化現象を調べる手段として有用な、X線・中性子反射率測定による構造解析を用い、液晶中にお



根本文也 先生

ける界面活性剤の自己集合による液晶配向制御およびずり流動下での固体表面における界面活性剤集合構造の解析において、優れた研究成果をあげてられました。X線・中性子反射率測定と顕微鏡観察やレオメーターなどの異なる手法を組み合わせることで、表面・界面での界面活性剤の分子配列を支配する条件と機能について明らかにしています。これらの研究成果は、デバイス設計など今後の材

料設計に大きな指針を与えるものです。

技術奨励賞は、企業の若手研究者・技術者を対象としていますが、残念ながら本年度は応募がありませんでした。

Lectureship Award

LAは、部会のさらなる発展と活性化に寄与していただくため、現在、当該分野で著しい活躍をされておられる著名な研究者、あるいは将来この分野を先導する活躍が期待できる研究者に授与されます。毎年1~2名程度の研究者を選び、秋に開催される「コロイドおよび界面化学討論会」で表彰し、受賞講演をしていただいています。来年度はまた公募を行う予定です。

おわりに

受賞者のお二人には、11月の「Okinawa Colloids 2026」において受賞講演をしていただく予定ですのでぜひご聴講下さい。

科学奨励賞および技術奨励賞は45歳未満の研究者を対象としていますが、出産・育児、介護等のライフイベントにより研究・業務期間に算入されない期間がある場合、応募年齢の制限を緩和します。応募時に部会員であり、受賞後、部会活動に積極的に関わっていただける方の積極的なご応募をお待ちしております。

〔令和8年度 副部会長・賞選考委員長
懸橋理枝（大阪産業技術研究所）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan